



【日本企業にとっての事業機会と成功のポイント】

2026年2月、福岡貿易会では、インド（デリー、ベンガルール、チェンナイ）の3都市において現地視察および市場調査を実施しました。

本視察は、インドビジネスへの参入や事業拡大を検討する企業を対象に、福貿グローバル塾として、事前セミナーや個別相談と組み合わせた形で実施したものであり、参加企業に対して、机上の情報では得られない現地の実情を把握する貴重な機会を提供することができました。

本稿では、本視察で得られた知見をもとに、インドの産業環境、工業団地の魅力、進出における留意点、そして成功のポイントについてお伝えします。

また、日本企業の進出事例として、化学、自動車、電装、プラントエンジニアリング、物流などの分野における実際の事業運営状況を確認できたことは、今後インド進出を検討する企業にとって重要な示唆を与えるものでした。



＜ニムラナ工業団地を運営する
ラジャスタン州産業開発・投資公社＞

【1. インド現地視察の概要と特徴】

今回の視察は、2026年2月1日から8日までの期間で、デリー（グルガオン・ニムラナ）、ベンガルール、チェンナイ（スリシティ）の3都市において合計13か所を訪問しました。訪問先は、工業団地、日本企業の現地法人、物流企業、電力会社、スタートアップ施設など多岐にわたり、インド経済の多面的な姿を確認する内容となりました。

具体的には、ニムラナ工業団地、スリシティ工業団地といった代表的な工業団地に加え、化学メーカー、自動車関連企業、物流企業、電力配電会社、さらにはインド工科大学院（IIM）に付属するスタートアップ支援施設（NSRCEL）などを訪問し、現地産業のダイナミズムを体感しました。



＜ニムラナ工業団地にある大日精化工業株式会社
インド現地法人＞